

今週のみことば

「帰って行きなさい、あなたの息子は治ります」

(ホセア書 1 4 章 2 節～8 節)

「あなたがたはことばを用意し、主に立ち返れ。主に言え。『すべての不義を赦し、良きものを受け入れてください。私たちは唇の果実をささげます。』」  
(14:2)

(ヨハネの福音書 4 章 4 3 節～5 4 節)

「イエスは彼に言われた。『行きなさい。あなたの息子は治ります。』その人はイエスが語ったことばを信じて、帰って行った。」 (4:50)

今日のメッセージ要旨

◎私たちはひとりの人が瀕死であるとの情報を知ったときに慌てふためくのではないのでしょうか？ 主のみ言葉に聞き、主に求めよう！

◎ホセアが活躍した時代は、イスラエルではヤロブアム二世の治世の時代(BC 786-746年)で、かつてない繁栄を経験した。このような経済的、物質的繁栄は不幸にして、宗教的、道徳的、社会的な腐敗をもたらした。そのような背景で、ホセアは悔い改めの招きを呼びかけ、その後、神様はイスラエルを回復し、豊かな繁栄を与えると約束されたのです。

ホセア書14章は回復の預言です。1～3節は、主が教えて下さった悔い改めの祈りです。主が人々に求められるのは、これまで彼らが楽しみとし、また頼りとしてきたものを捨てる決心なのです。大国(アッシリア)も、軍事力(馬)も、偶像も当てにならず、それらに頼って「みなしご」になったのです(3)。「わたしは…露のようになる」(5)。パレスチナは雨量の少ない乾いた土地なのです。「露」は貴重な天の恵みなのです(I列王記17:1)。安全と幸いは主のみ手の内にあるのです。

◎ヨハネの福音書4章から主イエス様による救いのみ業とその喜びを味わいたい。主イエス様はユダヤからサマリヤに行かれ、そこを去ってガリラヤに行かれたのです。ガリラヤの人たちは主イエス様を歓迎した(故郷のエルサレムでは歓迎されなかった、1:11)。主イエス様がエルサレムでなされた御業を過越祭に参加していた人々から聞いていたからです。

◎ガリラヤのカナは主イエス様がかつて水を葡萄酒に変える奇跡を行われた地です。カペナウムに住んでいる王室の役人(ヘロデ王の宮廷に仕える人)が瀕死の息子の癒しを求めて30km程離れたカナにまで来て主イエス様の許に跪いたのです。すると主イエス様の「あなたがたは、しるしと不思議と見ない限り、決して信じない」との冷たいとも聞こえる言葉にも関わらず「主よ、どうか私の子どもが死なないうちに下って来ててください」と懇願したのです。そのとき「帰って行きなさい。あなたの息子は治っています」と宣言されたので、この役人はその言葉を信じて帰っていったのです(口語訳「助かる」新共同訳「生きる」)。後でわかったことですが、その同じ時刻に息子は癒されたのです。その出来事によりその父親とその家の者がみな主イエス様を信じたのです。

◎他の福音書では主イエス様はガリラヤのカペナウムにて百人隊長のしもべの病を癒された出来事が記されています(マタイ8:5～13、ルカ7:1～10)。何れも「神様のみ言葉を信じる」者の幸い、特に「見ないで信じる者」の幸いが語られているのです(20:29)。主イエス様は「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにもお願いします」(17:20)と祈られました。私たちも主イエスのみ言葉に聴くと共に信じる者でありたい。